

第7回地域協議会における主な意見

1 新しい学校の教育内容について

総合選択制について

大学科の枠を越えて授業選択できる総合選択制にするのか、大学科の枠内でコースまたは小学科の枠を越えたものとするのかについては、学校を1つにするのかどうかという議論の中でないと、決定することは難しいのではないかと。

総合選択制の具体的内容は、専門である学校の先生に任せるのがよいのではないかと。

介護福祉士の資格取得について

無理に介護福祉士を取れる学校にしなくても、高校でホームヘルパー2級を取得し、地元で就職して、現場でステップアップを図り、介護福祉士の資格を取るのも生徒にとって励みになる。

新しい学校に特色を持たせる意味からも、ホームヘルパー2級の資格が取得できることは大きい。

資格取得の制度が大きく変わり、必要とされる単位数もかなり増えているが、新しい学校の目玉になればと思う。

資格取得には介護関係の専門教科を多く修得しなければならないこと、生徒数の減少があることからすれば、福祉系の学科はつukれないのではないかと。

その他

農業は日本の根幹であり、農業教育は絶対なくしてはいけない。農場は一旦なくしてしまったら直ぐに作れと言っても出来るものではない。

「情報ビジネス」も優れた教育であるし、必要だという声を聞くので、ぜひ作っていただくと、子どもたちが地元に残るのではないかと。

普通科に進む子どもが多いのが現状だが、農業や林業、介護といった福祉関係がこの地域には必要な教育である。

生徒数の推移を踏まえた上で、現在の案にあるようなコース内容や数でいいのか、議論する必要がある。

2 今後の課題等

十数年後には、この地域の普通科も生徒数から見ると、1校でも対応できるようになってしまうことから、池田高校関係者にも協議に加わってもらい、普通科高校をどうするかという議論をすべきではないか。

生徒数の減少はあるが、スタートに立ったときの新高校と池田高校の2校をどうするのか、新高校の学科・コースはこの案のままでいいのかなどを議論するうちに、普通科の問題も出てくるのではないか。

池田高校を進学校として残すとか、専門高校は新高校にするなどの形を出すのがよいのではないか。

新高校の生き残りを考えれば、県外からも希望してくるぐらいの魅力ある学校にしないといけない。普通にやっていると、この地域が一番人口が減少しているのです、ますます厳しくなる。

学校規模が小さくなると、部活動によっては活動が困難となり、子どもたちが辛い思いをする。私たち大人が、子どもたちのことを考え、いかに集団を作ってやるかが大切である。

辻と三好両校を統合した新高校の教育内容についての意見は出尽くしたと思うが、次に生徒数の推移を見て協議を深める必要がある。

今まで新しい学校の教育内容を一生懸命議論してきたが、全体をよく見渡してみると、このまま進めてよいのか、もう少しグローバルな視点で議論していく必要がある。

この協議会は、辻高校と三好高校との2校再編を協議する場であり、その範囲をこえて、三好地域全体で考え、協議するほうがよいのであれば、新たな協議会を立ち上げるべきではないか。